

踊りで引き継ぐ、
艶やかな島田の伝統芸能――

島田鬻まつりで踊りの振り付けをしている北川文子さん。日本舞踊若紫流の若紫芳扇として、島田大祭でも踊りの後見を務めるほか、市内小中学校などで和文文化講師として、踊りを通して日本の文化を子どもたちに伝えていきます。

【家族でつなぐ鬻まつり】

島田鬻を結った鬻娘たちが奉納踊りを披露する「島田鬻まつり」は、今年で58回目を迎えます。北川さんは20年以上に渡り、その奉納踊りの振り付けを続けていきます。

「鬻まつりの振り付けは、母の代から。昔は、母に踊りを習って私も鬻を結って参加していたんですよ。姉は『鬻小唄』を歌い、私たちはその歌声に合わせて振り付けるなど、家族ぐるみで鬻まつりに携わってきました。だから、とてもこの

お祭りへの思い入れが強いんです」

かつて鬻娘は、美容師組合の美容師たちが担っていたが、近年は「島田鬻を結って踊ってみたい」という女性たちが、全国各地から集

4曲の踊りを教えなくてはなりません。初めて踊る人でも覚えやすいように、日常使う言葉や仕草を取り入れる工夫をしているそうです。

「鬻が一番で、踊りは花を添えるもの。でも、楽しみに



日本舞踊の指導者
北川文子さん（稲荷二丁目）

まります。どの鬻娘も、より華やかで美しく見えるよう、北川さんは踊りの振り一つ一つに気を配っています。

【女性を輝かせる喜び】
鬻娘には、3日間の練習で

お祭りの当日はいつも心配でドキドキが止まりません。それでも毎回最後には、自信を持って踊るみんなの姿を見て安心するとともに、達成感を味わわせてもらっています」

【踊りで伝える心】

北川さんは、長年に渡り日本舞踊に携わっています。今では、5歳から80代までの幅広い年齢層の生徒に踊りを教えています。「大変だと思っただことは一度もなく、踊りのことを考えるとかえって元気になれます」と微笑む北川さん。市内小中学校の和文文化教育などでも、講師として、次代を担う若い世代に、和文文化の豊かさや情緒を伝えてきました。

「踊りには、豊かな感受性を育む力があります。一曲一曲を丁寧に踊れば、きつと伝わる思いがあるはずですよ」と語ります。その表情からは、これまで繋いできた人々そして踊りへの愛情が伝わってきます。今年も鬻娘の姿の中に、北川さんが込めた伝統へのこだわりを垣間見ることが出来るそうです。



島田鬻まつりの踊りを振り付けする北川さん